

2009年1月19日発行

ぱ ろ す

四季の会・ユーザーズ・サービス

253号

発行人 浅沼 邦夫

拝啓 寒冷の候、所長先生の皆様には益々ご健勝のことと存じます。

今年の三が日、主な神社仏閣への人出は、計1億人に迫り、統計が残る74年以後の最多になった。神仏にすがりたくもなるのです。2月に入ると節分です。4日立春です。「節分には、豆まきをしますか?!」最近、大声で「鬼は外、福は内」を聞かなくなりました。今年、大声で、所長先生を中心に豆まきをして、鬼をはらいましょう!!「気分爽快」「家内安全、商売繁昌」厄払いをしてみたいかがでしょうか!!

「いちずに一本道、いちずに一つ事、観音さまに助けられ、佛さまに守られて、曲りなりにも一本道、迷いながらも一つ事」相田みつをの詩「道」です。「いちずに一本道」は、「愚直に」「ぶれない生き方」大事なことかと思うのです。百年に一度の大変化「潮目」が変わったと思うのです。

そんな中で、朝日新聞で、1月16~18日にかけて一面で、「生保不正契約の代理店、税理士59億円投資」「税理士連前会長が役員」「企業向け生保1万件不正。手数料益100億円」とか掲載されていた。所長先生はすでに内容は知っていると思うのです。会計事務所では、生損保を扱っている税理士先生はかなり多いのです。我々会計事務所では、お客様を企業防衛として守ることを、理念をもとに行っている人たちがほとんどです。これを超えて欲を出すことはお客様に大変な御迷惑をかけてしまうのです。朝日新聞一面で継続されますと大変かと思うのです。

正月の箱根駅伝、さわやかだった。見た人も多かったようです。「東洋大」が出場67回目で初の総合優勝を飾った。前評判は早大か駒大かといわれていたが、危機を乗り越えて初制覇を成し遂げた。10人の中には、2年生が4人、1年生も2人。若いチームは、新しい潮流に変えるくらいの潜在力があつた。最優秀選手に贈られる金栗杯は、往路5区の山登りで、山神様がつい

ていたような8人抜きをした「東洋大・柏原竜二」でした。出場67度目の若いチーム一丸で、悲願の初Vは感動的だった。

米国ニューヨーク市のハドソン川でUSエアウェイズ機が不時着し155人の乗客、乗員が犠牲者もなく救出された。機長の判断で惨事を間一髪で避けられたのです。読売の記事の中に、全員が脱出したあと、チェスレイ・サレンバーガー機長(58)は、いつ川底に沈むかもしれぬ機内に残り、2度にわたって通路をくまなく行き来して、乗客が残っていないかを確認している。これこそ本物のプロであるのです。

本物を知ることが これから重要です

私はプロとして大事なことは、「いちずに一本道」は大事かと思うのです。「税理士の道」も大事です。箱根駅伝の中での感動がある。不時着で、冷静な機長の態度、「本物のプロ」こそ学ぶことが多いのです。

週刊フナIFAXによれば船井幸雄の語録が出ていました。「世の中の仕組みを変えよう」ということです。

近代資本主義の担い手である企業は、前年よりも売り上げを伸ばさなければならぬし、利益を増やさなければならぬのが、いまの経済の仕組みです。しかし、このまま売り上げと利益を伸ばし続けることは難しくなっていますし、それを継続するとすれば、人類の将来を早くつぶしてしまうことにつながるとおそれられます。そういう点で、これからは「世の中の仕組みを変えなければならない」と思っています。そのヒントはいくつかあります。

第一にいえるのは、正しい人間の生き方を知り、それを実現することです。正しい生き方は、人間の特性を見ればおのずとわかります。人間の特性とは次の三つです。

人間は地球上の生命体全ての遺伝子を持っており、地球上の全ての生命体の運命に責任をもたなければならない存在である。

理性的存在であるということ。知的生命体としては、いまの人間はまだエゴの段階を抜けきっていませんが、努力してエゴを少なくすればよいのです。競争から共生への転換がどこまでできるかがこれからの試金石となるでしょう。

人間は学習し、頭をよくすることができる。学習によって、知識や技術を習得し、それによって世のため、人のために尽くす生き方ができるはずで

この3つの人間の特性にそって生きることが正しい生き方です。正しい生き方以外にはこれから人類が生き延びる道は残されていないと思えてなりません。

第二の方法は自然の掟にしたがうことです。これだけ進んだ文明社会でも、人間は明日の天気一つ変えられないのです。この事実を謙虚に受け止めて、自然の掟に逆らわないことが大切だといえます。

第三のヒントは、本物を知ることです。いまは本物知らない人がまだまだ多いた

めに、本物が世に出にくいともいえます。本物の価値がわからないのです。本物かどうかは、それによって蘇生化するか崩壊化するかわかります。いまこそ私たちは、本物を識別する目を養う必要があります。

本物のよさを知りますと、いまの世の中の仕組みがいかに薄っぺらで、しかも崩壊化をもたらすものかがわかるでしょう。本物を知るには、本物に近づくしかありません。「誰が見ても真善美だと思ふものが本物だ」と、かつてある素晴らしい経営者から教えていただいたことがあります。本物の特性は、周囲に溶け込んで、目立たないことです。しかし、よく見てみるとたしかに調和し、真善美を体現しているのです。

第四は、考え方を考えることです。どんなことも肯定、感謝、プラス発想するように変えるのです。世の中に生起することは、すべて必要、必然でベストのことであると考えるのです。このように考えますと、すべてのことが愉しみとなるように思います。人間は生来、人生を愉しむために生まれてきたのですから、この考えに立つことがもっとも自然です。そしてもっとも正しい本物の生き方なのです。何がどうあっても、愉しく生きたいものです。

人間は、本来何をやってもいいのです。私たちに創造主がいるとすれば、創造主は私たちに原則自由を許しています。共産主義がつぶれ資本主義が残ったのは、自由を認める資本主義の方が自然の掟に合致していたからです。そして、さらにその本質に合致させるべく、世の中の仕組みを変えるよう促されているのだと思います。

物事を大局的に見よう

ユダヤ民族が言い聞かせる言葉がある。「自分ほど手強い敵はいない。自分に勝つ者は無敵だ。だから他人に勝つより、まず自分に勝て。人生は自分との勝負だ。自分に勝てば人生が半分成功したと思ってよい。まず、自分との戦いに勝ち、その上で社会と戦え。至言である。この言葉は経営者が大事にすべき自立の言葉である。

昨今、売上は増加するどころか、減少している。売上も減少し、粗利益も減少している。悪循環になってしまうのです。売上は減少しても、粗利益をきちんと守ることが何よりも大事です。経営者に粗利益の科学的な意味をよく知らせることが重要です。経営者に「経験やカン」は、しばしば重要な役割を果たすこともあります。

しかし、「経験やカン」は往々にして重大な錯覚に陥りやすく、あまり深く考えず単なる「カン違い」や「読み違い」で経営の判断を済ませてしまったら大変なことになります。社長の日々のビジネスは数字との戦いです。売上?利益?コスト?資金?……会社を取り巻く環境は数字の集まりです。ですから、経営者にとって、計数感覚を身につけることが非常に大事なことです。そこに「決算診断」システムが生きてくるのです。